

私の学校づくり

ベクトルを合わせて

松阪市立東部中学校 校長 松本 賀美

本校区は、櫛田川下流の農村地帯を中心とした、自然環境に恵まれた広範な地域から成り立っています。生徒は明るく素直であり、何事にも一生懸命取り組んでいます。学校教育目標「目標をもって、仲間とともに前進する」、めざす学校像「共に学び、感動と絆があり、誇りがもてる学校」に向けて、教職員が一丸となって取り組んでいます。

私は、「学校行事は、一人ひとりの生徒が自己の確立と共生・ 協働を学ぶ絶好の場である」と考えています。昨年度は、コロナ禍で規模の縮小はありましたが、体育祭、文化祭、マラソン大会などを実施しました。特に、マラソン大会は本校の伝統的行事であり、授業でも毎回コースを走るため、体育科だけでなく全校体制で取り組んでいます。苦しいことを乗り越え、最後まで頑張る力を育てるため、今後も継続していき たいと考えています。本校の強みは何と言っても「チーム力」 です。行事などを通じて全教職員がベクトルを合わせて取り 組んでいます。

学校行事、日々の授業、生徒会活動、部活動、時には校内 研修会や職員作業など、生徒や教職員の頑張りをできるだけ ホームページで伝えるようにしています。コロナ禍となった 昨年度からは、よりこまめな情報発信の必要性を感じ、ネタ 探しに校内を歩いています。些細なことでも、日々の様子を 知っていただくことで、学校に対する理解を深める一助とな ればと思っています。

私は今年度ラストイヤーですが、子どもたちが未来を切り 拓く力を育てるため、日々努力を続けていきます。



コロナ対応 … そして「一人一台端末」元年

三重県小中学校長会 会長

田中寛

この度、三重県小中学校長会長 を務めさせていただくことになり ました、津市立藤水小学校の田中

寛です。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、昨年度末ご退職された校長先生方への「感謝の集い」に つきましては、残念ながら今回も中止となりました。本来であれ ば、長年の労に対して深謝申し上げたいところですが、それも かなわないため、この紙面をお借りしてご勇退されました校長 先生方のご健勝とご多幸を心よりお祈りしたいと思います。本 当にありがとうございました。

また、令和2年度は、全国的に新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、予定していた総会は書面決議となり、研究大会も誌上発表となりました。そして今年度は、総会は再び書面決議となりましたが、研究大会については、小学校部会、中学校部会ともにオンラインによる開催を予定しています。

さて、今年度は新学習指導要領が実施されて小学校は2年目、中学校は1年目となります。その中で、中央教育審議会は、令和3年1月26日「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して、~全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現~」を答申しました。

本答申においては、「令和の日本型学校教育」の実現に向けて、「子供たちの多様化」「情報化の加速度的な進展」「教師の長時間労働」など学校教育が直面している課題を解決するため、これまでの日本型学校教育の良さを受け継ぎながら、更に発展させ、学校における働き方改革やGIGAスクール構想を強力に推進するとともに、新学習指導要領を着実に実施することが求められて

います。また、学校における授業の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することの重要性が示されています。 特に各学校では、一人一台端末と高速ネットワークの整備による新たなICT環境をいかに生かしていくのか、日々頭を悩まされているのではないでしょうか。

このコロナ禍において、これらの課題にしっかりと向き合い、 一つ一つ解決していくためには、スクールリーダーたる校長の 確かなリーダーシップとマネジメント力が一層求められます。

その一方で、「チームとしての学校」という新たな学校像が示される現代では、校長に求められるリーダーシップのあり方も変わりつつあります。これからの学校で求められるのは、一人の強い力で組織を統率・変革していくタイプのリーダーではなく、リーダー自らが等身大の自分を見せ、メンバーとの間に信頼関係を築き、全員が最大の力を発揮できる環境を整えるリーダーシップです。

この三重県小中学校長会も同様であり、「環境を整え」「積極的に働きかける」ことが、組織としての役割だと考えています。このような状況だからこそ、県校長会として学校経営の研究や県内外の情報収集を積極的に行い、会員の皆様と共有すること、また各地区の状況把握に努め、行政機関等への提言や要望活動を充実させていくことが重要と考えます。

今、学校教育は大きく変わろうとしています。この転換期に校 長職を担う我々は、その責任の重さを自覚し、その職責を果た さなければなりません。そのために、自らの専門性の向上に務め、 学び続ける職能団体として存在意義を高められるよう、この校 長会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和3年度 三重県小中学校長会 役員・理事・事務局一覧

小学校役員									
役職	名 前	郡市·所属校							
会 長 兼小学校部会長	田中 寛	津市·藤水小							
副会長	小林 一也	四日市市·浜田小							
副会長	中西佐智子	亀山市·野登小							
幹 事	吉永 泰志	松阪市·伊勢寺小							
幹事	阪井 宏行	度会郡·大宮小							
幹 事	布本 肇	名張市·名張小							

中学校役員 役職 名 前 郡市·所属校 副会長 兼中学校部会長 中川 克巳 津市·東橋内中 副会長 松田 誠 伊賀市・緑ヶ丘中 副会長 上ノ坊 淳 北牟婁郡·三船中 事 片山 哲哉 桑名市·正和中 隆久 松阪市·嬉野中 山下 事 金森 晃生 伊勢市·港中

事務局

事務局長 森田 正美 事務局次長 深見 充弘 事務局員 宮田 典子

17十亿区本 区	只一片	E ## ` :	サイカルリ	見				
27 ± A	会員数	小学校理事		人口业	中学校理事			
郡市名		名	前	所属校	会員数	名	前	所属校
桑名市·桑名郡	28	和氣	幸恵	在良小	10	藪中	政雄	陵成中
いなべ市・員弁郡	17	藤井	三七子	笹尾西小	6	島田	真也	東員第一中
四日市市	37	山田	喜久	小山田小	22	諸岡	克博	保々中
三重郡	8	桂山	幸和	川越北小	4	坂口喜	喜久夫	朝日中
鈴鹿市	30	吉川	佳男	牧田小	10	井上	久	鼓ヶ浦中
亀山市	11	西口	昌毅	川崎小	3	徳田	浩一	中部中
津 市	50	嶋田	浩	養正小	20	青木	利斉	西橋内中
松阪市	36	楠堂	晶久	小野江小	11	川田	佳也	三雲中
多気郡	15	奥山	雅彦	日進小	5	武田	善之	大台中
伊勢市	22	泉	恵子	東大淀小	10	西岡	幸一	小俣中
度会郡	12	田辺	宣昭	下外城田小	6	辻井	良孝	大宮中
鳥羽市	6	倉田	正義	加茂小	5	小西	正修	長岡中
志摩市	7	宇仁田	日元	磯部小	6	古橋	雄洋	磯部中
伊賀市	19	簗田7	マリ子	島ヶ原小	10	吉村	育紀	大山田中
名張市	14	本多期	恵美子	蔵持小	5	篠木	素道	赤目中
尾鷲市	5	井谷	聡美	向井小	6	奥田	秀紀	潮南中
北牟婁郡	8	森	能生	三浦小	J			
熊野市	8	北村	尚	入鹿小	8	喜田	功	阿田和中
南牟婁郡	9	矢賀	陸都恵	御浜小	٥			

委員会活動

学校経営委員会

委員長

嶋田浩



学校経営委員会は、各郡市校長会から 提出された「小中学校教育の充実発展に 関する施策並びに予算要望」を集約し、9 月に県教育委員会事務局の各担当課とそ れらの内容について協議を行います。

5月24日に第1回学校経営委員会を

開催し、昨年度の活動の成果と課題をもとに、本年度の活動方針 等について協議しました。本年度の活動方針は次のとおりです。 〈活動方針〉

- (1) 各郡市校長会を通して、県内全小中学校長から県教育委員会の施策や予算等に関する意見を集約します。また、要望の 焦点化に努め「重点項目」を設定します。
- (2) 集約した意見を「要望書」「解説書」に取りまとめ、次年度の小中学校教育の充実発展に資するよう要望活動を行います。
- (3) 昨年度の要望活動を踏まえ、子ども・保護者・地域・教職員の具体的な事例に基づいて要望活動を行います。
- (4) 取りまとめについては、昨年度までの確認事項を尊重しつつ、 要望書の信頼性を高めるように努めます。

委員長という大役をいただき、教育施策や予算について県教 委と協議する場をもつという重要性とその責任の重さをひしひ しと感じるとともに、身の引き締まる思いでいます。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応や、GIGA スクール構想の実現に向けたタブレット端末の有効な活用など日々取り組む課題は増える中で、教職員の働き方改革を推し進めていく必要もあります。

学校現場で日々感じている課題の解決に向けて、一歩でも前 進することができるよう努めていきたいと考えています。

会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

進路指導委員会

_{委員長} **掛橋 敏也**



5月18日に第1回進路指導委員会を 開催しました。生徒が主体的に進路を決 定できるように生徒に寄り添った進路指 導を行うこと、コロナ禍において生徒や 保護者ができる限り不安なく進路に向か うことができるよう委員会の運用を進め

て行くことを確認致しました。

県教委所管事項でも、新型コロナウイルス感染症への対応について説明がなされました。経緯はさておき、これまで要望し続けてきたwebでの合格発表がようやく実現しました。今年度、昨年以上にコロナへの対応が迫られることが考えられます。昨年度の取組を生かしていきたいと思います。また、県内各地域の状況を考慮し、各関係機関との協議等を行い、現行制度の課題改善に向けて意見交換をさらに進めていきたいと考えています。以下に今年度の活動方針を示します。

〈活動方針〉

(1) 児童生徒の理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現を目

指す進路指導を推進します。

- (2) 県内各小中学校間の情報交換に努めます。
- (3) 三重県教育委員会・三重県立学校長会・三重県私学協会等の関係諸機関と協議し、現行入学者選抜の課題や入学者選抜制度、高校活性化問題の改善に努めます。
- (4) キャリア教育についての研修に努めます。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響により生徒・保護者が不安 を感じることなく進路に向かえるよう、関係機関に聴き取り・ 要望・提案を行っていきます。

生徒指導委員会

委員長

篠木 素道



依然続く新型コロナウイルス感染症は、様々な教育活動の規模縮小や変更、場合によっては中止の措置を取らざるを得ない状況となり、「新しい生活様式」に基づく感染症対策を講じながらの学校生活によって、子どもたちは、多くのストレス

や悩みを抱えながら生活を送っていることだと思います。そのような中、昨年度の実践交流会では、虐待等の支援の必要な対応について話し合ったのですが、話題の中心となったのは、不登校への支援の在り方、対応の難しさでした。

そこで、生徒指導委員会は、次のような活動方針及び計画を 策定しました。校長先生方のご協力をお願いいたします。

〈活動方針〉

- (1) 生徒指導等の諸課題の解決に向けた取組と支援の在り方を追求します。
- (2) 地域及び関係機関との連携を密にし、互いの交流を深めるとともに、安全・安心な学校づくりに努めます。
- (3) 県内小中学校間の情報交換を行い、県校長会及び各市町の校長会にも発信していくような取組を進めます。

〈活動計画〉

- (1) 10月7日(木)総合教育センター臨床心理士による講義及 びグループ別実践交流会
- (2) 各市町(校)における不登校の実態と課題

広報委員会

_{委員長} 西岡 **幸一**

令和3年度に入っても、昨年から続く 新型コロナウイルス感染に関する厳しい 状況のニュースであふれています。明る い展望はまだ先で目に見えないウイルス との戦いはもう少し続くことになりそう です。

校長先生方におかれましては、感染対策を講じて子どもたちの 命と健康を守りぬくことや学びを保障することだけでなく、学 力向上の取組、働き方改革の取組等様々な教育課題に日々対応 していただいていることと思います。

私たち広報委員会は、そのような校長先生方の一助となるよう、

今年度も、各校における様々な教育課題への対応や実践、郡市校長会の活動の様子などをお伝えしていきたいと思います。情報交換・情報収集の場として、延いては、三重県小中学校長会の会員相互の繋がりを深めていくことにお役に立てればと考えておりますので、執筆等ご協力をお願いいたします。

〈活動方針〉

- (1) 会員の声を幅広く掲載するとともに、情報交換や情報収集 の場としてお役に立てる紙面づくりに努めます。
- (2) 広報活動を通して、会員相互の連携意識の更なる向上を図ります。

〈活動計画〉

- (1) 7月、2月の会報を発行する。
- (2) 編集内容①「私の学校づくり」②「今日的課題の克服に向けて」 ③「新任校長の声」④「随想」⑤「研究大会参加報告」⑥「ちょっ といい話」⑦「地区校長会だより」⑧「私の薦める一冊」など
- (3) 紙面構成は、「8面・カラー印刷」
- (4) 会員への執筆依頼は、当該地区の理事を通じて行う。

特別委員会

_{委員長} **諸岡 克博**



昨年度は年度初めに全国的に臨時休校 措置がとられ、学校行事等の見直しや中 止、縮小が強いられ、全ての教育課程を 終えるべく、長期休業日の短縮等も余儀 なくされました。しかしその経験の中、 学校行事の準備にかける時間を短縮して

も開催できる可能性や行事そのものの意義等を再確認し、今後の新たな学校運営のあり方を見直す機会ともなりました。また、前倒しでICT環境が整備され、今年度の初めには県内すべての小中学校で一人一台端末が実現されました。これからの時代を担う子どもたちにとってICTを使いこなすことが必須とされている中、教員の指導力や地域の財源、保護者の経済力の差異が教育の機会均等の障壁となってくることが危惧されています。そこで各学校のICTに関わる教育の取組状況を把握し、自校の取組や行政に向けての要望に活かすことを目的に、「一人一台端末に関する取組」等についてのアンケート調査を実施します。ご協力ください。

〈活動方針〉

昨年度の「働き方改革」に関する調査に加え、「一人一台端末に関する取組」や「ICT環境整備」等についての各校の取組や各市町の状況を整理し、今後の「働き方改革」「一人一台端末」の取組の展望を提言する。

〈活動計画〉

- (1) アンケートの実施
- (2) アンケート結果から、成果・課題等を整理し、今後の展望を考察する。

私の薦める一冊



モチベーションを劇的に 引き出す究極のメンタル コーチ術

亀山市立中部中学校 校長 徳田 浩一

「ほんの一言で、相手の輝きを引き出すような魔法の言葉があったらなあ」と、教師になった頃から追い求め続けてきたように思う。「頑張って」とか「よくやったね」などは常套句であるが、それ以外にも、時には褒め、時には叱り、時には励ましと、あらゆる場面で様々な言葉かけを試みてきた。振り返れば、成功例もあったが、失敗も多々あったのではと、反省することしきりである。

私自身の部活指導の中で、こんなことがあった。それは、全国出場がかかった駅伝大会でのこと。アンカー勝負の展開となり、最終区を務める選手の目は焦点が定まらない様子であった。私は、「君の得意はラストスパート。最後に競技場勝負になったとしたらこっちのもんや!」と声をかけた。その時、その子の目が一瞬輝いたように感じた。実際にその通りとなり、競技場に入っても並走が続いたが、ラスト80m付近で前に出て勝利をもぎ取った。「ラスト勝負なら負けないと信じて走りました」は、レース後、その子が満面の笑みで口にした一言である。

本著に、「あなたを認めているという空気が成果を変える」という一節がある。「承認欲求」が満たされると、より一層その人らしく努力できるようになり、パフォーマンスも出しやすくなるのだとか。かつて私は、そんな理論など露知らず、偶然にも彼の「承認欲求」に対して、「あなたを認め、評価している」と声に出したことで、彼のモチベーションが向上し結果が伴ったのである。この本の著者、鈴木颯人氏は、スポーツメンタルコーチとして著名であり、これまでコーチングしたアスリートは1万人を超えるそう。ビジネスマンや会社の管理職等へのコーチングも手掛けられており、私が本著を、組織のリーダー・指導者はもとより、校長先生諸氏にお薦めする所以である。

最後に、この本の文中より、私が特に気になった言葉を紹介する。「二流のリーダーは教える、一流のリーダーは気づかせる」や、「二流のリーダーはとにかく頑張らせようとする、一流のリーダーは無理やりやる気を出させない」などは、大いに納得するところ。そしてもう一つは、「二流のリーダーは自慢話ばかりしたがる、一流のリーダーは積極的に失敗談を話す」である。前段の駅伝勝利の話題が、「これは自慢話になるなあ」と悟った私は、期せずして二流のリーダーぶりを発揮してしまったので、これにて脱稿としたい。

学校教育の今日的な課題



「令和の日本型学校教育」 の二つの視点

三重県教育委員会事務局 小中学校教育課長

遠藤 雅典

本年4月に、三重県教育委員会事務局小中学校教育課長に着任いたしました。本来であれば、多くの皆様と直接お会いし御挨拶申し上げたいところですが、感染症対策のためにそうした機会も少なくなっております。今回、本誌に寄稿させていただく機会を頂戴いたしまして、大変有難く存じます。

小中学校教育課は、小中学校における教育課程に関すること、公立幼稚園の振興等を所掌しています。最近のトピックでは、GIGAスクール構想の実現に向けた取組や、外国にルーツを持つ児童生徒への対応、いわゆる「夜間中学」を含む義務教育段階の学びの機会の確保などの課題に取り組んでいます。課所属の14名の指導主事・主査を中心に、各市町の教育委員会の皆様、そして、各小中学校長の皆様との接点を可能な限り多く持っていきたいと思っております。

引き続き新型コロナウイルス感染症への対策が求められているところ、子どもたちの学びの機会を保障するべく、多くの教職員の方々に尽力いただいておりますこと、改めて敬意を表したいと思います。三重県内では、令和3年4月から5月にかけて、公立小中学校の児童生徒及び教職員で80名程度の感染が確認されました。学校現場の皆様の努力もあり、学校経由で感染が広く拡大した例はありませんが、接触者を対象とする検査の都合等で、教育活動に影響が生じた

事例も報告されています。県教育委員会としても、引き続き 緊張感をもって、情報提供を含めて必要な支援に取り組ん でまいります。

本年度は、昨年度の小学校に続いて中学校の新学習指 導要領が全面実施となり、加えて、"一人一台端末"の整備、 小学校35人以下学級の段階的実施といった国全体での教 育環境の条件整備が大きく前進し、さらなる教育実践の改 善・充実に対する期待が高まっています。そうした中、本年1 月、中央教育審議会において、「『令和の日本型学校教育』 の構築を目指して」と題する答申が出されました。答申は、初 等中等教育全般に関する包括的な内容となっていますが、 実現すべき学びの姿として、「個別最適な学び」と「協働的な 学び」の二つのキーワードが示されています。これらは、既に 学習指導要領においても盛り込まれている概念であり、「個 に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適 な学び」と言えます。学習者である子どもが自らの学習状況 を把握し、AI技術への依存ではなく、主体的に学習を調整す ることができるよう、促していくことが求められています。そし て、「個別最適」が「孤立」に陥らないよう、社会の創り手とし て必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実する ことも重要です。

答申でも言及されているように、一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面か、といった二項対立に陥らず、それぞれの良さを適切に組み合わせて生かしていくことが必要です。子どもたちも、その子どもたちを取り巻く社会も、変わり続けています。私自身、教育現場から頂くデータや声を貴重なエビデンスとして、現場の実情を把握し、子どもたちにとって価値のあることは何なのか、検討を深めていきたいと考えています。皆様の御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。

新【任【校】長の声



はじめの一歩は 学校目標の策定

伊賀市立神戸小学校 校長 **林 康子**

本校は、毎朝、国鳥である雉の鳴き声が聞こえてくる自然 豊かな学校です。この学校の校長として、はじめの一歩とし て取り組んだのは学校目標の策定でした。この学校が、組織 として何のために、どのような目標を掲げ取り組んでいくの か、それを明らかにして、職員の皆さんと共有することが、 最も重要であると考えたからです。

まず、神戸小学校の沿革史やこれまでの経営方針、校歌などを調べることから始めました。そして子どもたちの実態と三重県教育ビジョンや伊賀市教育大綱等を基にして「元気に、仲良く学び、夢に向かって歩み続ける神戸小の子」としました。策定に当たり、大切にしたことが3つあります。

1つめは、子どもたちが、夢や希望に向かって、健やか に、仲間と協力しながら学び、心を磨き、成長していく学校 をつくる、という校長としての決意。 2つめは、一緒に学校運営をしていただくために、職員の皆さんや保護者・地域の皆さんに学校目標を覚えていただける工夫。校歌の1番「元気に学びます」2番「仲良く磨きます」3番「明るく歩みます」から言葉を引用しました。

3つめは、策定の過程。職員の皆さんに説明し、2週間の意見をいただく期間をおきました。また、伊賀市教育研究センターの事務局長、教育相談員、2地区の市民センター長、中学校長など沢山の方々に相談にのっていただき、「地域の方の意見を聞くように」「校歌は大好きだったので、言葉の引用は嬉しい」「短くて覚えやすい」など貴重なご意見をいただきました。

今後は、この「元気に」「仲良く」「学び」「夢」をキーワードにして、少しずつ取組を進めて行こうと思います。



今できることを続ける

四日市市立高花平小学校 校長原 由香里

四日市市の中心地から4キロほど南の天白川の左岸堤防を、古い街並みに沿って更に西に3キロほど上がったところに広い団地があります。その団地の中に、高花平小学校があります。昭和35年に高花平団地が開発され、昭和38年に小学校が設立されました。

現在もそのままの校舎ですが、緑に囲まれ、校内は手入れがされており、また正門前の道路に沿ってパンジーが咲き、 綺麗に使われている学校という印象です。

その環境からも分かるように、地域の方々もとても大切に している学校だと分かりました。私は、身が引き締まる思い とともに緊張感をもって着任をしました。

毎朝、地域の見守り隊の方々にあいさつをして、正門前に立っていると、元気よくあいさつをしてくれる子どもたちの姿。最近では、自分の嬉しいことや困ったことなどを話しかけてくる子どももいます。

その後職員室に戻り、しばらく職員と会話をしたり、担任 が教室で気持ちよくスタートができているか様子を見たりし ています。校舎内が静かになった頃、カメラを持参して校内 を回ります。いろんな景色が見えてきます。

トイレのスリッパや教室内の環境を見るだけでも、子どもたちの様子がよくわかります。また、「高花っ子がこんなふうに友だちや先生と学んでいます。」というメッセージを伝えることは、地域・保護者と繋がるだけでなく、職員の意欲向上に繋がるという思いでHPを発信しています。職員は、明るい雰囲気があり、雑談はもちろん子どものことやICT活

用、授業づくりなど話題が多いです。

職員が活気に満ち溢れ、仕事を楽しむ。そのために、校長は学校を「知る」「伝える」ことからだと考えています。その先にある「つながる・つくる学校」をめざして、できることを続けていきます。



「的確な判断力」を 磨きたい

東員町立稲部小学校 校長 加藤 研二

予測不能な感染症の拡大が教育現場にも大きな影響を与え続けている。感染防止が優先か、学校教育活動か。その判断が求められる。新任校長として着任後、すぐに重要な判断に迫られた。4月は、授業参観、遠足。5月は、修学旅行、全校縦割り行事。6月は、プール水泳。7月のキャンプ。実施すべきか、それとも延期・中止にすべきか…。判断するのに大変苦慮した。

その他にも、生徒指導、保護者対応など、突発的な出来事が発生する毎日。行事等の実施判断に限らず、様々な場面で 的確な判断が求められる。

そんな時に、沈着冷静に判断し、指示を出せる校長になりたいと思っているが、当然、経験がないため、判断が遅れる

最後は「自分が責任を取ればいい」という覚悟でいるが、 できることなら「えいっ、やーっ!」のような一か八かの判断 は出したくない。

そこで、不測の事態に遭遇して、あたふたと狼狽すること なく、迅速且つ的確に判断できる力を磨くために必要なこと は何か考えてみた。

- ◎普段から様々なシミュレーションをしておくこと
- ◎必要な情報を素早く集めること
- ◎誰もが分かりやすい判断基準をもつこと
- ◎東員町校長会の7人の先輩に相談すること
- ◎一番近くにいて頼りになる教頭に相談すること

一日でも早く「的確な判断力」がある校長になれるよう、 そして新しい自分の可能性と出会えるよう、持てる力のあり ったけを出してこの職に取り組んでいきたい。

とはいいつつも、「他者依存」することも大事だと思っています。困った時は一人で抱え込まずヘルプサインを出しますので、その時は、どうかよろしくお願いします。

ちょつといい語



つながる想い

御浜町立御浜小学校 校長 **矢賀 睦都恵**

入学式の日、桜色の着物のお母さんがいらっしゃいました。「素敵ですね」と声をかけると、お子さんのおばあちゃん(お父さんのお母さん)の着物だと教えてくださいました。お父さんのご実家に飾ってある、お父さんの小学校入学式の写真を見たそうです。小学校1年生のお父さんと並ぶ、桜色の着物のおばあちゃんを見て、お母さんが「私もこの着物を入学式に着たい」とお願いしたということでした。きっと幼き日のお父さんも、若き日のおばあちゃんも、満面の笑みで、新しいスタートに胸を膨らませていた写真だと想像できます。

1枚の写真から、その想いを受け取って、お子さんの 入学式に同じ着物を着たお母さん、その横に並ぶにこに こ顔のお子さん、喜んで着物を貸してくれたおばあちゃん、「おめでとう」と送り出したお父さん、みんなの想 いがつながった日だったと思います。

コロナ禍で、いろいろな行事が変更、短縮、中止を余 儀なくされてきた1年余りですが、節目の大切さを痛感 するできごとでした。一生に1度しかない小学校の入学 式は、大きな節目の大事な行事です。できる限りの感染 予防対策をおこないながら、全校で新入生を迎えたい、 歓迎の気持ちを伝えたい、6年生に最高学年の役割を果 たせたい、きちんと思い出を残したい、全教職員で話し 合って、計画を見直し、見直し、準備をしてきました。 無事に入学式ができて本当に良かった、子どもたちやお 家の方の笑顔が見られてうれしいと改めて思いました。

今後も、子どもたちが心豊かに健やかに成長するために、「何が大切か」引き続き全教職員で知恵をしぼりながら教育活動をおこないたい、つながる想いを大事にしたい、お父さんの写真と同じ場所で写真を撮る親子の姿に決意を強くしました。





教師という職業を 振り返って

尾鷲市立輪内中学校 校長 **矢賀 正之**

私は小さい頃から大金持ちになるのが夢でした。理由はいたって簡単です。美味しいものが腹いっぱい食べられるからです。私は、母親のお腹にいる時から、重かったようで、3800gで生まれ、生まれると同時に指を「チュッ、チュッ」と吸ったらしく、「この子はよほどお腹を空かせて生まれてきたのか、よく食べる子になるぞ」と言われていたそうです。中学3年生の時に100㎏を突破し、地元では、「矢賀は相撲取りになったらしい」と噂されていました(笑)。

まあ、そんな体でしたから、幼少の頃から食べることはめっちゃ好きでした。保育園の頃だったか、母親が迎えに来た帰りにソフトクリームとたこ焼きを買ってもらうのが楽しみで、月に2回ぐらい食べていました。今、思うと、それでも食べ過ぎやろと思いますが、その時は幼いながらに「うちはお金があまりないから、月2回しか食べられないのかなあ」と思っていました。この生い立ちが、お金持ちになりたいと思ったきっかけです。

(中略)年月は流れ、中学校の教職に就いた私は、女子生徒に総無視され、学級経営がうまくいかず、辞表を枕元に置いて寝る毎日が続きました。その頃からこんなに辛い思いをして「人は何のために生きるのだろう」と考えるようになりました。

ある時、私が3年生の道徳の授業をしていると、一人の生徒が不意に「先生、僕らって何のために生きとるん?」って質問してきました。答えにつまった私は、苦し紛れに「おまえは、どう思うんや?」と聞き返しました。すると、その生徒は「誰かに感動を与え、感謝されるためかなあ」とさらりと答えました。『誰・か・に・感・動・を・与・え・感・謝・さ・れ・る・た・め』「これだ。これが私が何年も探し求めていた答えだ」とスッと心に落ちました。

美味しいものを腹いっぱい食べたいがゆえに、お金 持ちになりたいと思っていた少年が、教師という職業を 通して、教え子から「誰かに感動を与え、感謝されるた めに生きる」ということを教わり、生きている。やっぱ り、教師になって良かったなと思います。

地区校長会

志摩市小学校長会

情報交換と課題解決

志摩市小学校長会は、7校の小学校の校長で組織されています。志摩市となって16年あまりが経ちますが、その間に20校あった小学校が統廃合により現在の7校となりました。

月1回の定例会は、年間10回を予定しています。午前中は、6名の中学校長会と合同で外部団体の依頼事項の検討、 志摩市教育委員会からの所管事項の説明や連絡事項を受けて、市の校長会として課題解決に向け、どのようにすれば最善であるかを相談しています。午後からは、小学校と中学校に分かれ、小学校部会として改めて協議を進めたり、情報交換を行ったりして、各校の課題の解決や新たな取組に対して知恵を出し合っています。小規模校ならではの悩みや大規模校ならではの悩みなど様々ですが、校長同士の考えの交流は大いに参考となる事ばかりです。お互いに違った視点で物事を捉えてみることができる頼もしい会です。

令和3年3月に志摩市教育推進計画 [第Ⅱ期] が策定されました。その中で、①子ども一人ひとりを大切にする教育、②自然や伝統を愛し、ふるさとを誇ることができる教育、③知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む教育、④未来を創る人材を育む教育、4つが基本目標として示されました。これら4つの項目を意識し、新たな教育課題の解決や施策の具現化に知恵や悩みを出し合って、志摩市の教育がさらに発展していくことを目指しています。



津市中学校長会

2市8町村が合併し誕生した新たな「津市」も16年目を迎えました。この間、小学校を中心に統廃合が進み、現在、小中合わせて本校67校、分校2校となりました。平成29年4月には、市全域で小中一貫教育を推進していく方針のもと、小学校の統廃合を機に中学校を加えた義務教育学校「みさとの丘学園」が東海三県で初めて誕生しました。また、「あすなろ分校」が、県立かがやき特別支援学校の分校として編入されるなど、大きな変化がありました。

こうした中、中学校については、生徒数600名を超える学校から30数名という学校まで学校規模は幅広く、市町村合併後も、それぞれが地域の学校として存続しています。本年度、中学校長会では、新たに3名の新任校長を迎え、義務教育学校、附属中学校を加えた21名(うち女性4名)のメンバーでスタートしました。学校の置かれた環境は様々ですが、市の教育振興ビジョンに掲げる「夢や希望を持ち国際社会に生きる自立した人づくり」を目指し、特色ある学校づくりに取り組んでいます。

津市では、小中学校長、義務教育学校長、附属小中学校副校長が参加する年10回の定例会と、6つの専門委員会(教育課題、研究推進、人事、予算、評価制度、学校マネジメント)や小中学校それぞれの部会の他、津市を北、中、南に分けた地区校長会において、様々な課題や各校の取組についての協議や情報交換を行っています。

特に中学校部会では、グループウエア(GRIDY)を活用し、 日常的に情報交換を行うことで、コロナ禍における学校経営 について、多くの気づきやヒントを得ています。引き続き、 お互いが気軽に相談でき、元気や勇気を分かち合える関係を 大切にし、共通する諸課題の解決に努め、津市の教育の充実 と発展を目指していきます。



編集後記

今年度も、昨年度から引き続き新型コロナウイルスの影響で、子どもと教職 員の「命と健康」を守り、子どもの「学び」を保障するため、学校生活様式や学 校運営のあり方を工夫・検討しながら日々、臨機応変な対応を迫られています。 そのような中、第58号の発行にあたり、原稿執筆を快くお引き受けいただい た皆様方には、心より感謝申し上げます。

子どもが安心して学ぶことができる学校を創るためには、学校全体が明るく 前向きな雰囲気であることが望まれます。

それにはまず、私たち校長が、やりがいを持ち、楽しく元気に学校経営してい

くことが大事だと感じています。校内の連携だけでなく、横の連携として、校長 同士の情報交流も大切になっています。

本年度から、広報「校長会みえ」の発行を、働き方改革の視点から負担軽減の ため年2回とさせていただきます。

しかし、この広報「校長会みえ」は、今後の情勢、教育の動向を踏まえて情報 提供に努めますとともに、会員相互の情報交流や校長会組織の充実、発展に役立つ紙面づくりを目指してまいります。

ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。